

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 16 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02377

研究課題名(和文)「朝日会館」の子供を対象とした文化活動の検証及び記録化と、社会教育への影響研究

研究課題名(英文) Inspection or Database Production of the Cultural Activities for Children at the Cultural Center "Asahi-Kaikan" and their Influence on the Social Education

研究代表者

山本 美紀 (Yamamoto, Miki)

青山学院大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：60570950

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1926年から1962年まで大阪の中之島にあった総合文化施設「朝日会館」における子供を対象とした文化活動について検証することを目的とした。朝日会館コドモの会の機関誌『アサヒカイカン コドモの本』に掲載されていたジャンルである、音楽・映画・絵画・ロシア絵本・雑誌の各方面の研究により、研究が進められた。その結果、朝日会館の事業が、朝日新聞社厚生事業の社会貢献的な見地から、特に力を入れて朝日会館の子供対象企画であったことや、それが京阪神間の「プチブル以上の」家庭の子供達を対象とした「趣味教育」を意識した展開であったことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

具体的な場「朝日会館」と、そこに集う人々をつなぐ雑誌『アサヒカイカン コドモの本』また「アサヒカイカン コドモの会」「アサヒ コドモアテネ」によるネットワークは、学校教育とは違い、自分の興味関心から結びつく主体性を伴うものである。雑誌の内容と朝日会館での各活動には、循環構造が構築されていた。このことから、昭和初期より社会福祉事業として始まったメディアが主導し志向した教育活動は、「趣味教育」をキーワードに、学校教育とは違ったつながりを生み出し、一つの教育コミュニティーを創り出していたことが明らかになった。これは、現代における、学校外コミュニティー形成とその意義に示唆を与えるものである。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to examine cultural activities targeting children at Asahi Kaikan, a general cultural facility located in Nakanoshima, Osaka, from 1926 to 1962. The research was conducted by researchers in the genres of music, movies, paintings, Russian picture books, and magazines, all of which were published in the Asahi Kaikan Kodomo no Kai's journal "Asahi Kaikan Kodomo no Hon" (Asahi Kaikan Children's Book). As a result, it became clear that the Asahi Kaikan made the project for children, with particular emphasis on the social contribution aspect of the Asahi Shimbun's welfare program, and that it was developed with "hobby education" in mind, targeting children from families "above petit-bourgeois" in the Kyoto, Osaka and Kobe area.

研究分野：芸術文化教育

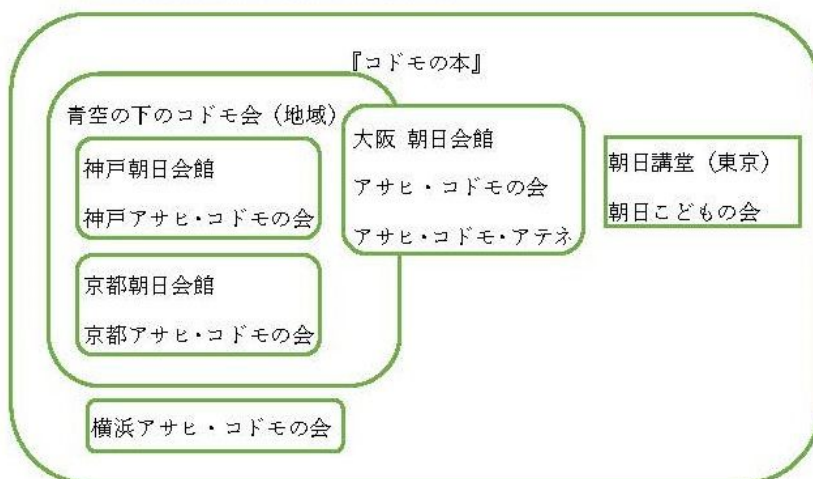
キーワード：芸術文化 教育 音楽 ホール 文化施設 教育プログラム

## 1. 研究開始当初の背景

朝日会館の運営母体である社団法人朝日新聞社会事業団(1928年1月-)、以下「社会事業団」)は、子供に対しての企画を利益の社会還元事業と位置づけ、初期の段階では「児童の世界」を考慮した「健全な娯楽と慰安の機関」となることをめざし、「趣味教育の上から」企画を組んでいった。それらは、「アサヒ・コドモの会」(以下「コドモの会」)、『アサヒ・コドモの本』(以下「コドモの本」)「アサヒ・コドモ・芸術院」(以下「コドモ・アテネ」)「青空の下のコドモの会」の枠組みの下、東京では特に「朝日こどもの会」として独自に展開されたことが推測された。

朝日会館の活動の特徴は、現実・仮定の両方のネットワークを備え、社会における文化活動の先駆的役割を担った点にある。現実の場に由来するネットワークとしては、「コドモの会」や、お稽古ごとである「コドモ・アテネ」等の館内活動、館外活動として「青空の下のコドモの会」等が相当する。子供への働きかけは、やが

<図1. 朝日会館子供対象企画範囲図>



て様々な分野の教育者による家庭に向けたメッセージを含むものとなり、例えば『コドモの本』などでは子供の良書の紹介や、夏休みの過ごし方についての家庭への勧めを掲載するなど、子供を糸口に家庭への積極的な介入の姿勢を見せ始める。さらに、朝日会館ではこのような活動の基盤となる、児童画や児童演劇など各種の教育に関する研究会や「児童教育資料展」を初めとした教育関係の展示会がもたれるようになり、民間を主体とした先端教育の研究センターのような様相を帯びていく。このような朝日会館の子供対象企画は、近代的な地域の文化施設が、積極的に社会の教育機関としての役割を自ら担い、実行していった日本における先駆的事例と考えられるものである。

以上のことから、本研究における学術的問いとして、以下2つを立てた。

：朝日会館の子供対象企画の全容、及び関係者・諸機関とのネットワークの構築方法、またそれを中心とした世界はどのようなものだったのか

：朝日会館の子供対象企画が当時の社会、また戦後の社会に与えた教育的影響はどのようなものだったのか。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、現代に至るまで続く多くの社会教育のモデルを提供してきた1.朝日会館の子供企画の全容の解明とその記録化、及び2.社会教育への影響を批判的に検証すること、である。

本研究の学術的独自性と創造性については、研究対象そのものが持つ独自性と創造性による。朝日会館の子供対象企画と、それまであった子供対象の文化活動との決定的な違いは、1.単発のものではなく、定期的かつ継続的な活動であった、2.仮想空間でのネットワークを同時に持

つ、一定の具体的場所があった、という点である。この2つの点がそろい、活動が広がりを見せれば社会に一定の認知を得、影響力を持ったと考えるのが普通である。しかし、今まで活動の全容が解明されたことも、その活動に批判的検証がなされたことも無かった。何より、朝日会館の子供企画で実現されていた戦前の豊かな文化的表象は、その後の戦中期・戦後期と比べれば、瞠目させるものがある。例えば「アサヒコド芸術院」が、小澤征爾らを排出した吉田秀和などによる戦後の「子供のための音楽教室」をはじめ専門性の高い早期芸術教育に与えた影響などは計り知れない。それらは、関西に限らず、また子供に限らず、戦後から現代に至る日本における文化活動の多くの源泉となり、モデルを提供したと推測されるにもかかわらず、影響関係が検証されることなく現在に至っている。従って、本研究において上記学問的問いは ①の検証の基盤となるものであり、互いの問いが明らかになることによって、研究の独自性と創造性を担保するものである。

朝日会館の子供対象企画での豊かな文化体験が、当時の人々に文化的豊かさが生活の豊かさにつながることを示し、目指す有り様(目指す姿)となっていたとすれば、戦後日本の復興の原動力の一部を担ったとも考えられ、現代に続く日本における芸術観の一部を鮮やかに浮かび上がらせるものとなると考えた。

このようなことから、本研究では以下の3点を研究達成の具体的な目標とした。

1. 朝日会館の子供対象企画の開館内外の活動、及び雑誌などを含む全容解明と、現存する資料の記録化。
2. 朝日会館の子供対象企画を契機とするネットワークの全容と構築方法の解明。
3. 1・2をふまえ朝日会館子供企画を中心としたコスモスを内外から描き出し、社会教育における影響を検証する。

### 3. 研究の方法

- 1について；資料範囲の中心は、『コドモの本』、朝日新聞記事で『朝日新聞社厚生事業団 議事録』、個人蔵の資料等が考えられる。『コドモの本』は残存数が限られており、欠番についても蒐集を進め、記録化の準備を進める。情報の欠けている部分については、当時の新聞記事や『朝日新聞社厚生事業団 議事録』などから拾い出し、時系列やジャンル別の表を作成し、朝日会館での子供のための企画の展開が確認できるようにする。
- 2について；資料範囲の中心は、『アサヒカイカン コドモの本』、朝日新聞記事、『朝日新聞社厚生事業団 議事録』、個人蔵の資料等が考えられる。さらに、朝日会館を会場とした子供のための団体や研究会による活動があり、それぞれの機関誌なども収集対象とする。大阪を始まりとしながら、神戸・京都といった関西の地域や、東京・横浜への展開を集約し、ネットワークを解明する。
- 3について；上記の結果をふまえ、1の成果については他の研究分野でも利用可能なように整理すると共に、シンポジウム等を開くことによって、国内外の研究者と検討する機会を持ち、成果を書籍化するなど、広く公開していく。

### 4. 研究成果

本科研(科学研究助成金(基板研究C, 課題番号 18K02377))を受け、「朝日会館コドモ企画研究会」を立ち上げ、定期的に研究会を持ち、研究会メンバーそれぞれの専門分野からのアプロー

チをもって、朝日会館での子供対象企画について内容の解明と社会的な影響に関する共同研究を行ってきた。途中コロナ感染拡大により、研究のスピードが落ちたものの、1年の研究期間の延長が許され、2021年8月4日に無事シンポジウムを、オンライン上ではあるが東京大学において東アジア藝文書院(EAA)・ジャーナリズム研究会のご協力の下に開催することができ、研究成果をブックレット『EAA Booklet-27 EAA Forum 18 朝日会館と コドモ 文化(1926-1935)

メディア、家庭、社会教育』<sup>1</sup>にまとめ、社会に広く研究成果を示すことができた。

研究会ではこれまで、大森雅子(20世紀ロシア文学・文化)がロシアの「サウエートの繪本」を、紙屋牧子(映画楽・視覚文化論)が朝日会館での「映画教育」について、高山花子(思想史・表象文化研究)が「アサヒ・コドモの会」の児童画教育について、また前島志保がメディア史の視点から、山本美紀(近現代音楽文化・音楽教育学研究)が朝日会館の目指した趣味教育について、それぞれ取り上げてきた。シンポジウムでは、これらの研究成果に加えて、佐藤宗子氏(千葉大学名誉教授・児童文学)からは昭和の子供たちの文化的背景を、また畠山兆子氏(梅花女子大学名誉教授・児童文学・児童文化史研究)からは朝日会館を産んだ大阪の子供文化について、両氏のこれまでのご研究から惜しみなく成果を共有していただき、研究会メンバーの内容に歴史的流れと、文化的奥行きを与えられた。

ブックレットでは、シンポジウムでの議論と共に、その場では時間の都合上取り上げられなかった内容も加筆して、朝日会館を子供とその家族への視点から光をあてる内容となった。朝日会館の子供企画で実現されていた戦前の豊かな文化的表象は、その後の戦中期・戦後期の文化活動をも含めれば、様々な影響が推測される。例えば「アサヒコド芸術院」が、小澤征爾らを排出した吉田秀和などによる戦後の「子供のための音楽教室」をはじめ専門性の高い早期芸術教育に与えた影響などもその一つであろう。それらは、関西に限らず、また子供に限らず、戦後から現代に至る日本における文化活動の多くの源泉となり、モデルを提供したと考えられる。

朝日会館の子供とその家族を対象とした芸術文化企画は、メディアとそれが主導する民間文化施設の積極的な社会教育への介入ともいえるものである。本研究を通じて、その豊かな文化体験を明らかにし、当時の人々に文化的豊かさのモデルを示すものとなっていたこと、またそれが、現代に続く日本における芸術観の一部を鮮やかに浮かび上がらせるものとなったことを報告する。

---

<sup>1</sup> 『EAA Booklet-27 EAA Forum 18 朝日会館と コドモ 文化(1926-1935) メディア、家庭、社会教育』URL は以下。

<https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/publications/eaforum-18/>

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 山本美紀	4. 巻 12
2. 論文標題 「『アサヒカイカン コドモの本』第2巻（1932年）現存号 目次と解題」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 青山学院大学教育人間科学部紀要	6. 最初と最後の頁 51～64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本美紀	4. 巻 65
2. 論文標題 「児童雑誌『日曜世界 コドモノトモ』へのアプローチ 青山学院所蔵6誌の目次と解題」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 青山学院大学教育学会紀要「教育研究」	6. 最初と最後の頁 133～151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本美紀	4. 巻 181
2. 論文標題 「朝日会館のコドモ企画（中ノ島が文化の中心だった頃－朝日会館の軌跡を巡る）」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『大阪春秋』	6. 最初と最後の頁 88～89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大森雅子	4. 巻 180
2. 論文標題 「戦前・戦中の朝日会館における新劇（中ノ島が文化の中心だった頃－朝日会館の軌跡を巡る）」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『大阪春秋』	6. 最初と最後の頁 90～91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 179
2. 論文標題 「草創期の朝日会館における映画上映（中ノ島が文化の中心だった頃—朝日会館の軌跡を巡る）」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『大阪春秋』	6. 最初と最後の頁 80-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前島志保	4. 巻 105号
2. 論文標題 「『婦人雑誌』の誕生と出版の大衆化」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『比較文學研究』	6. 最初と最後の頁 27-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前島志保	4. 巻 177号
2. 論文標題 「朝日会館から刊行されていた雑誌（1） 戦前の『会館芸術』（「中之島が文化の中心だった頃 朝日会館の軌跡を巡る）」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『大阪春秋』	6. 最初と最後の頁 98-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 紙屋牧子	4. 巻 51巻13号
2. 論文標題 「制御から零れ落ちる過剰さ：京マチ子の身体」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 82 - 88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本美紀	4. 巻 19
2. 論文標題 20世紀初頭の日本のメディアを活用した福祉活動と、メソジスト文化としての賛美歌	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ウェスレー・メソジスト研究』	6. 最初と最後の頁 7, 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本美紀	4. 巻 35
2. 論文標題 伝統文化遺産の保存と活用 教育の場での扱いを含めた日本における動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『民族藝術』	6. 最初と最後の頁 62, 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本美紀	4. 巻 10
2. 論文標題 戦前の民間ホール主導による子供の趣味教育とネットワーク ホールの社会的存在意義の自覚と社会へのアプローチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『奈良学園大学紀要』	6. 最初と最後の頁 145, 153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 紙屋 牧子	4. 巻 100
2. 論文標題 最初期の「皇室映画」に関する考察：隠される/晒される「身体」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 映像学	6. 最初と最後の頁 32～52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18917/eizogaku.100.0_32	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 山本 美紀
2. 発表標題 メディア主導の民間教育 子供の「趣味教育」の目指したもの
3. 学会等名 第6回ジャーナリズム研究会 朝日会館と<コドモ>文化(1926-1935) - メディア、家庭、社会教育
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前島 志保
2. 発表標題 メディア史から見た『アサヒカイカン・コドモの本』
3. 学会等名 第6回ジャーナリズム研究会 朝日会館と<コドモ>文化(1926-1935) - メディア、家庭、社会教育
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大森 雅子
2. 発表標題 『アサヒカイカン・コドモの本』における「サウエートの繪本」 1920年代～30年代ソ連の児童文学の受容
3. 学会等名 第6回ジャーナリズム研究会 朝日会館と<コドモ>文化(1926-1935) - メディア、家庭、社会教育
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 紙谷 牧子
2. 発表標題 朝日会館と「映画教育」－“少年映画”『二つの玉』（1926）をめぐって
3. 学会等名 第6回ジャーナリズム研究会 朝日会館と<コドモ>文化(1926-1935) - メディア、家庭、社会教育
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 高山 花子
2. 発表標題 『コドモの本』からみる「アサヒ・コドモの会」の児童画教育－自由画教育との比較から
3. 学会等名 第6回ジャーナリズム研究会 朝日会館と<コドモ>文化(1926-1935) - メディア、家庭、社会教育
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 MAESHIMA, Shiho
2. 発表標題 “ The Empire ’ s Divided World Picture: Discourses and Representations of “ Self ” and “ Other ” in Interwar Japanese Magazines. ”
3. 学会等名 TINDAS (Integrated Area Studies on South Asia at The University of Tokyo) International Workshop: Knowledge on the Move: Connectivities, Frontiers, Translations in Asia. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 「座談会というスキャンダル 談話的公共圏の成立」
3. 学会等名 第5回ジャーナリズム研究会(東京大学 EAA/東アジア藝文書院)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 “ Representations of American Army Camp in Post-war Japanese Movies: Men and Women Make “ Peace ” (講和) in Yassamossa and Akasenkichi ”
3. 学会等名 Forum on Screen Media in Cold War Asia (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 「大正・昭和初期映画館チラシ」から見えてくるもの
3. 学会等名 公開研究会「演劇博物館所蔵「大正・昭和初期映画館チラシ」が埋める無声映画史の隙間
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Miki Yamamoto
2. 発表標題 The influence of the Christian music over the school and social education in Japan.
3. 学会等名 Internationale Arbeitsgemeinschaft fuer Hymnologie (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本美紀
2. 発表標題 朝日会館からフェスティバルホールへ 受け継がれたもの、受け継がれなかったものからみる視点の転換
3. 学会等名 日本音楽学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shiho Maeshima
2. 発表標題 For What Purpose the Company Incorporates; the Case of Japanese Publishers in Early 20th Century." (with Takashi Shimizu)
3. 学会等名 23rd European Business History Association Annual Congress (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shiho Maeshima
2. 発表標題 Consumer Cosmopolitanism in Interwar Japanese Popular Magazine Advertisements.
3. 学会等名 Northeast Modern Language Association 51st Annual Convention (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大森雅子
2. 発表標題 「朝日会館におけるロシア文化の受容 演劇と美術を中心に」
3. 学会等名 シンポジウム「朝日会館と京阪神モダニズム 戦前・戦中・戦後」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本美紀
2. 発表標題 「伝統文化遺産の保存と活用 教育の場での扱いを含めた日本における動向」
3. 学会等名 シンポジウム「能楽における伝統の意味を考える」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本美紀
2. 発表標題 「近代日本のメディアを活用した福祉活動と、メソジスト文化としての賛美歌」
3. 学会等名 日本ウェスレー・メソジスト学会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本美紀
2. 発表標題 「朝日会館の子供対象事業；メディアが築く福祉的・重層的つながり」
3. 学会等名 シンポジウム「朝日会館と京阪神モダニズム 戦前・戦中・戦後」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 紙屋牧子
2. 発表標題 「大阪朝日新聞懸賞映画『二つの玉』（1926年）をめぐって」
3. 学会等名 「朝日会館」の子供を対象とした文化活動」 研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前島志保
2. 発表標題 「朝日会館」の成り立ちと『会館芸術』の雑誌としての意義」
3. 学会等名 大阪メディア文化史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shiho Maeshima, Takashi Shimizu (共同発表)
2. 発表標題 For What Purpose the Company Incorporates; Cases of Japanese Publishers in Early 20th Century.
3. 学会等名 Law and Society Association (LSA) 2018 Conference
4. 発表年 2018年

## 〔図書〕 計8件

1. 著者名 山本美紀 大森雅子 紙屋牧子 高山花子 前島志保 佐藤宗子 畠山兆子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学東アジア藝文書院	5. 総ページ数 118
3. 書名 EAA Booklet 27 EAA Forum 18 朝日会館と<コドモ>文化(1926-1935)ーメディア、家庭、社会教育	
1. 著者名 荒木広(編) 前島志保 ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 871
3. 書名 『古典の未来学 Projecting Classicism』荒木浩(編) 「世紀転換期日本および西洋における俳句の詩的可能性の拡大 出版、翻訳、再評価」	
1. 著者名 落合教幸・阪本博志・藤井淑禎・渡辺憲司 編 前島志保 ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 888
3. 書名 『江戸川乱歩大事典』 (「百貨店/デパート」項)	
1. 著者名 志村三代子、角尾宣信、四方田犬彦、河野真理江、具珉炯、紙屋牧子、鳥羽耕史、坂尻昌平、久保豊、長門洋平、川崎公平、深田晃司、小森はるか、金川晋吾、斉藤有吾	4. 発行年 2020年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 554
3. 書名 『渋谷実 巨匠にして異端』	

1. 著者名 山本美紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 271
3. 書名 「解説」『会館芸術会館芸術 第 期 戦後篇』第28巻	

1. 著者名 山本美紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 296
3. 書名 「解説」『会館芸術会館芸術 第 期 戦後篇』第29巻	

1. 著者名 前島志保	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 253
3. 書名 「解説」『会館芸術 第III期 戦後篇』 第25巻	

1. 著者名 紙屋牧子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 332
3. 書名 (分担執筆) 論文題目: 占領期の田中絹代と小津安二郎 なぜ女は「制裁」されるのか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ホームページを通じた成果発表  
 東京大学東アジア芸術書院  
 ブックレット及びシンポジウム報告  
<https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/publications/eea-forum-18/>  
 代表者ホームページ  
<http://mikiyamamoto1abo.epps.aoyama.ac.jp>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前島 志保  (Maeshima Shiho)  (10535173)	東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・教授   (12601)	
研究分担者	紙屋 牧子  (Kamiya Makiko)  (20571087)	玉川大学・芸術学部・非常勤講師   (32639)	
研究分担者	高山 花子  (Takayama Hanako)  (40789070)	東京大学・東京大学東アジア芸術書院・特任助教   (12601)	
研究分担者	大森 雅子  (Omori Masako)  (90749152)	千葉大学・大学院人文科学研究院・准教授   (12501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------